

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	3月	10日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	小倉	河添	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	明日香村：上（かむら）の薬師堂の薬師如来像、四天王				

所在地	高市郡明日香村上(かむら)				
所有者(取材 対応者)名	大字上(上総代 ***様)(個人 情報守秘)		連絡先 ***		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：明日香村文化財課				
市町村 指定文化財	彫刻	5 軀	薬師如来像(1軀)、四天王(4軀)		5 軀とも
	1978(昭和53)年4月4日指定				
建造物	棟				
文化財指定理由	村人の熱意で地方に残る仏像群で、平安時代の仏像資料として貴重であること。				

文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法など		記入者の感想		
	昨年、防犯カメラが設置された。1年に1度の八講祭の日以外に付近で火を使うことが無い。		心配な状況ではあるが、現状維持出来ることを願う。		
獣害対策	被害の有無、対策など		記入者の感想		
	周辺の地面に、鹿や猪の痕跡が見られたが、お堂に被害は無い。虫の侵入が多いとのこと		特に無し。		

保存～継承  
へ 苦勞と  
今後の課題  
と対策

談山神社周辺の桜井市や明日香村の多くの大字で、中臣鎌足をしのぶ「八講祭」と呼ばれる祭事が行なわれてきた。桜井市では、今も八つの大字が交替で行なっているが、明日香村では八つの大字のうち、今は上だけが、3月第二日曜に行っている。薬師堂は、1年に1度のこの日だけ御開帳される。飛鳥坐神社の飛鳥宮司が来られて、鉄釜で焚いた御湯(みゆ)でお祓いし、薬師堂内で神事が行なわれる。薬師堂の中には、薬師如来像、四天王の他、十一面観音立像とヤカタに入った鎌足の小像も鎮座している。

総代さんによると、八講祭の日は区外に住んでいる人も帰ってきて参加し、代々受け継いでいっておられるそうである。

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

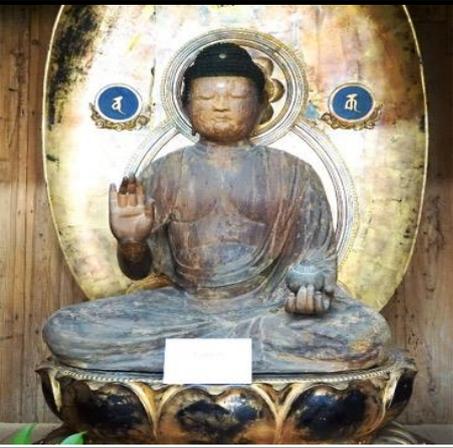
明日香村から多武峰に至る西多武峰街道に沿って出来たという上の集落の近くにお堂が建っている。上の現在の戸数は13戸(15世帯)で、やはり高齢化が著しいとのことである。それでも、お堂の床を令和に修理し、防犯カメラも設置して、地域の皆さまで、お堂と信仰を大切に守っておられるのを心強く感じる。

市町村指定文化財取材票<裏>

取材日	2024年	3月	10日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	小倉	河添	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	明日香村：上（かむら）の薬師堂の薬師如来像、四天王				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 薬師如来像、四天王

<p>薬師如来像（正面写真）</p>	<p>四天王像</p>
	
<p>文化財（安置状態の全体写真）</p>	<p>薬師堂（明日香村上）</p>

	
--	---

<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>本尊の薬師如来像は、像高87cm、左手に薬壺を載せ、結跏趺坐する通形の薬師如来坐像。桧材の一木造りで、両肩と膝前は別材で矧ぎ付けされ、目は彫眼である。体の均整が良く、穏やかな表情が漂い、平安時代中期の造立と思われる。四天王は、四軀ともに像高90cmほどの一木造り。本尊の薬師如来と同時代の造立と見られ、藤原時代の天部らしい穏やかな表情である。</p>	<p>伝承によると、中臣鎌足の子の定恵が、多武峰山上・山腹・山下に建てた「八講堂」の一寺として、薬師如来と鎌足木像を奉祀したという。上地区には、江戸時代中期に長安寺・教雲寺・薬師堂の三カ寺があったとの記録があるが、長安寺の一堂として薬師堂があったと思われる。地元の方の話によると、薬師堂の前に建っていた長安寺が、山の下の方（上垣内から下垣内）へ、70年ほど前に移されたとのことである。</p>